

7月 のできごと

【みつ・かふえ】7/6(土)

今月のみつ・かふえ(子どもカフェ)は、ボードゲームやUNO、クラッシュアイスゲームなどを楽しみ、3時からかき氷づくりをしました。好きなシロップをかけたり親子塾にあるジャムやソースなどをかけてオリジナルかき氷を作ったりしました。



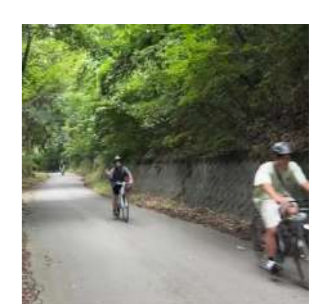
【皆神山へ】7/26(金)

若者たちは本日、親子塾から20km離れた松代にある「皆神山」に自転車で挑んだ。なぜ彼らはそこまでして山に向かうのか…今の自分を超越するため？まだ知らぬ自分に出会うため？自分と一致するため？それぞれ理由はあるだろうがわからない。でも突き動かされるように「行きたい！」から2日で決行。緩い上り坂に加えてとどめの250mの急坂。「無理かも」と何度も思いながらも仲間がいることで思いがけない力が湧く。一人じゃない、見えない力。これも貴重な体験、実は皆神山はピラミッドとも云われる不思議な場所、その心地よい風が抜ける山頂に昨年はなかったソーラーパネルが…
なんともモヤモヤした違和感が残る
帰りは爽快。無事に帰ってきた彼らの顔は汗にまみれながらも晴れやかだった。



【寝覚の床へ】7/4(木)

梅雨の晴れ間を狙って、木曽の上松町にある「寝覚の床」に行ってきました。そこは浦島太郎伝説も残る神秘的な地。駐車場から急な階段を降りると、大きな岩場の不思議な世界が広がって、子ども達は大喜びで走りだし、大人も必死に後を追いかけてきました。小学生の子どもたちは、どんどん石を跳び移り、あっという間に一番上の御堂に到達して、眼下の私たちに笑顔で手を振っていました。アメリカ育ちで毎年夏に長野の実家に帰省し、その間親子塾で過ごす小3H君、言葉の壁を超えてすっかり冒険仲間になっています。また、親子塾体験中の小4O君も、みんなの名前を覚えて名前を呼び合いながら、とても軽やかにまるでパルクールのように、岩から岩へと飛び降りながら駆け回ります。慎重派の小6H君は靴を脱ぎ、足の裏の感覚を研ぎ澄ませながら自分に確認する様に、「次はどっち？路を示して…」と呟きながら最初はゆっくり進んでいましたが、気付くと石から石へポンポンと飛び移っていて、大人も驚くほどでした。高校生たちは、静かに一步一步進み、スマホでその壮大な景色を撮影したり、静かに辺りを眺めたりして、自然と一体化しているようでした。それぞれ自分で進む方向を決め、自分のペース、自分のやり方で、大自然から五感を使って受け取る。そんな豊かな時間を過ごしていました。



ナマケの森④ 7/25(木)

5月の下見から始めて4度目の森開拓。森の作業にもだいぶ慣れ、総勢22名が参加して低木や下草の伐採。汗だくになりながらもひんやりした森に癒される。「ここにプランコ」「ここにジップライン」「ここはツリーハウス！」スッキリした森に、遊びのイメージがわく。森のあとは、大座法師池近くのTWINS AGEYAさんで、お祭り企画の下見。汗をかいた後に最高に美味しいソフトクリームをいただきながら、ここで何ができそうかを考えてワクワク

